

## 連載11 「Yes、Noの秘密」

明星学園で暮らしている多くの方々は、しゃべることができません。乳児が、「まんま」とか「バイバイ」とか、ひとこと、ふたことしゃべり始めるのが、およそ一才〜一才三ヶ月ですから、この基準をそのまま当てはめれば、明星学園の方々の言語の発達年齢は一歳以下ということになります。

ところが、この言語発達年齢一才以下という表現には、毎日、重度の知的障がいの方々とおつきあいをさせて頂いている私たちにとっては、大きな違和感があります。それは、「彼らが考えたり、感じたりしていることは、一歳の赤ちゃんと同じじゃない」と日々のおつきあいの中で感じているからです。

その違和感を感じる理由は、実はこんなところにあります。言語発達というのは、理解言語（話されていることを分かる力）と表出言語（考えたり、感じたりしていることをしゃべる力）の2つの領域に分けて考えることができるのですが、知的障がいの方々の大きな特徴が、「多くのことを考えたり、感じたりしているのだが、それを言葉として上手に表現することができない」ということにあるからなのです。つまり、表出言語発達年齢は、一歳以下であっても、理解言語発達年齢は、その年齢よりもはるかに高いところにあるということなのです。

一般的な常識では、「理解言語発達年齢と表出言語発達年齢とはほぼ同じ」ということになっています。「その人が、しゃべっている内容と分かっている内容はほぼ同じ」と考えるわけです。だから、その常識からは、「しゃべることができない人は、感じたり考えたりしていることも幼いはずだ」という誤った結論を導き出してしまふのです。

A子さん、「今度の面会、どうしようか？お母さん、また会いたいんだって、電話が来たんだよ」、そんな職員の話しかけに、目をまん丸くして、見つめ返してきます。A子さんには、もちろん発語はありま

せん。「二週間前に行事があつて、会ったばかりだよ、ここ二、三年、ずっとお母さんからの自立を考えているA子さんだから、そんなに会わなくてもいいよと考えているんじゃないかと、職員は思っているんだけど、どうかなあ？」「面会する？」じつと、職員を見つめているA子さんです。そして、次には目をつぶってしまいました。そこで職員が、「面会、断わる？」と尋ねます。また目を見開いたAさんは、今度はゆっくり唾を飲み込みました。彼女にとって、「目をつぶる」は、「No」で、「唾を飲み込む」は「Yes」なのです。

B男さん、「父の日のプレゼント、何にしようか？」問いに、職員の方に身体をしっかりと向けて、次に続く職員のことばを待っていています。「去年は、確か、帽子だったかな？お父さん、帽子大好きだったんだよ」お父さんが亡くなってからも、父の日のプレゼントをずっと続けているB男さんです。実家の亡き父の部屋には、いくつもの彼からのプレゼントの帽子が整然と並べられているそうです。「ハンカチ？靴下？…」職員の顔ばかり見て、表情の変わらないB男さんです。

「帽子？」と尋ねたところで、彼の目がカッと見開かれました。やっぱり今年もプレゼントは帽子のようです。彼の「Yes」は「目を見開く」なのです。

さて、C男さん、彼は、「目をつぶる」を「Yes」にしています。「今度のフルーツパーティー、誰を呼ぼうか？」フルーツが大好きな彼は、一ヶ月に一回、豪華フルーツケーキパーティーを担任の職員二人だけで開催していました。そこで今度は、その輪をどんどん広げていこうという話になって、招待する職員や他のメンバーさん方を選抜することになりました。写真を見せながら、「呼ぶ？」と聞きます。すると彼は、ちょうどタイミングで、目をつぶってくれるのです。

どうですか？かれらの実力！そして、それを支えるのは、支援職員の観察力と研究心ですね。